わたしたちの神原

発行・編集
神原コミュニティ協議会
☎74-0978

つながる地域の輪 (24)

子育て地域サロン「ふわふわ」

神原・甲陽園地区社会福祉協議会と、神原・甲陽園校区民生委員・児童委員協議会では、0～3歳児の親子の出会いの場として、子育てサロン「ふわふわ」を、毎月開催しています。（8月を除く）

会場は、神原公民館と甲陽園市民館のどちらかです。活動としては、自由に親子遊びを楽しむ他、絵本の読み聞かせやエプロンシアターを鑑賞したり、工作をしたり、時にはクリスマス会などのイベントもあります。

それらの活動を通して、子ども同士の自然な交流ができ、また保護者同士も仲良くなって、情報交流などもできます。

最近は、コロナ禍が一段落して、生後2カ月から1歳未満の赤ちゃんを連れての参加者が増えています。

また、西宮市内に「子育て地域サロン」のような、子育てについて相談できる場所が増え、保護者が何か相談したいと思ったときに、選択肢が多いこともうれしいことです。

子育ては楽しい半面、子どもの成長がそれぞれ違うために心配になることもあります。子ども、保護者同士の気軽な交流の場、情報交換の場として、ぜひ、ご参加ください。

開催日
毎月第3火曜日
10時～11時30分

会　場
神原公民館（神原6－11）
・7月15日　・10月21日
・12月16日
・令和8年1月20日
・3月17日
甲陽園市民館（本庄町1－75）
・9月16日　・11月18日
・令和8年2月17日

申し込み、費用は不要です。直接、会場に来てください。

※中止、変更となる場合があります。

おもちゃもたくさんあるね

初めて参加してもすぐ友だちに

スタッフと一緒に遊びましょう

◇祈り、安らぎ、永遠、そしてあなたらしさ…。心を大切にしたお墓作りを考えています◇
有限会社 中原石材工業所　代表取締役　谷本　俊和
事務所・工場　西宮市名次町12-27（満池谷墓地正面西約200m）
TEL　0798-73-5334　FAX　0798-70-5200
広告

昭和20（１９４５）年に第二次世界大戦が終わってから、今年で80年となりました。

その間、町並みは復興・発展し、戦争を知らない人たちが大部分になりました。また、その体験を語り伝えられる人も少なくなる一方です。

今回は、西宮や阪神間が受けた空襲について、過去に発行された『宮っ子』神原版」の中から、体験者の記録などを抜粋、要約して再掲しました。

大空襲の後は真っ黒の豪雨

西宮も終戦の10日前の夜中に大空襲があり、阪急の線路以南は丸焼け。私の家は阪急より北で焼失は免れたが、空襲の後は真っ黒な豪雨。２～３日は灰色の空から灰が降り続いた。（女　性）

空襲警報で防空壕へ　家は焼け、野宿した

昭和20年８月５日、空襲警報で起こされた。当時、私は浜脇小学校の近くに住んでいた。サイレンの鳴る中、あちらこちらから火の手が上がり、仰天。当時昼も夜もなかったので、服装はそのまま防空壕に駆け込んだ。

真っ暗な空に赤い布のような炎がスローモーションの雨のように降るさまは恐ろしかった。時折、爆弾が落ちたのかドーンと鈍い音がし、ビリビリと振動が伝わってきた。真夏のよく乾燥した木造家屋は、焼け落ちるのに時間はかからなかった。

夜が明け、壕の外に出てびっくり。はるか甲子園方面まで見渡せる焼け野原になっていた。

近所の人がみんな無事だったのはなによりだったが、それぞれの家庭では大黒柱の男性は出征中で、留守家族は老人と女性、子どもばかり。頼るあてのない者ばかりで、焼け跡で野宿するしかなかった。

ちなみにこの西宮空襲は、※B29が１３０機、爆弾と焼夷弾の二重攻撃で、多くの人が死亡し、負傷したことを後に知った。（女　性）

※B29…アメリカ軍の爆撃機の機種名

生きていたのが不思議　助け合って過ごした

私たちは、３月の神戸大空襲で焼け出されました。毎日のように敵機が来襲。今夜も上空を通るだけと思い込んでいた矢先の大空襲。ほとんどの人が着のみ着のままはだしで逃げ惑い、生きていられたのが不思議なくらい。近所の人も、半壊だった私の家に集まって来られました。

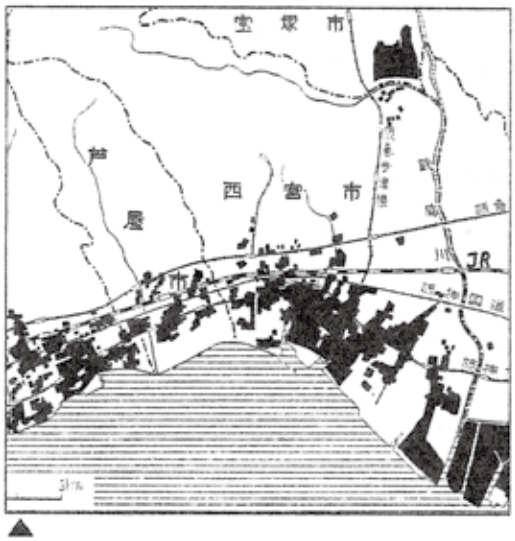
そして、その人たちと少しの食べ物も分け合い、お互いに名前を聞くこともせず、助け合って過ごしたことが心に残っています。（女　性）

地獄のような猛火　警防団の一員として

当時、私は警防団の一員として消防車の運転をしていました。神戸方面が空襲されるとの情報を得ていたのに、急反転して西宮市や鳴尾の飛行機製作所などが爆撃を受けました。西宮の旧市街地区の猛火は、全く生き地獄としか思えないありさまでした。

一夜明けて出勤した私たちは、戸外の防空壕の中で焼夷弾の直撃を受けて焼死した人や町中で亡くなっている人を消防車に乗せて学校の校庭に運び、焼け残った木材を積み、その上に並べて火葬しました。そのことは、今もはっきり覚えています。（男　性）

西宮戦災図〈西宮市史より〉



▲この西宮市の地図の黒い部分は、爆弾で吹き飛び、焼夷弾で焼き尽くされた所です。
死者904名、重傷者1,536名、被災家屋19,683戸。
87,800名が焼野原をさまよいました。

西宮市は、前後５回にわたって大空襲を受けた。

○第１回大空襲
昭和20年５月11日
B29約60機が来襲、桜谷町、越水町、若松町、分銅町、末広町、千歳町、寿町などに爆弾を投下。死者85人

○第２回大空襲は、６月５日
○第３回大空襲は、６月15日
○第４回大空襲は、７月24日
○第５回大空襲は、８月５日
（「阪神大空襲」と呼ばれる）
B29約１３０機から爆弾と焼夷弾が雨のように投下され、西宮南部市域は全滅し、焦土と化した。

資料
『日本の空襲六 近畿』三省堂・日本の空襲編集委員会より

小説『火垂るの墓』

『火垂るの墓』は、小説家・野坂昭如によって、昭和42年に書かれた短編小説で、満池谷のニテコ池が主な舞台になっています。翌年、この作品は直木賞を受賞しました。

アニメ映画やテレビドラマにもなったので、見た人もいるかもしれません。

今からちょうど80年前の第二次世界大戦末期に、神戸で空襲を受けて母を失った清太（14歳）と節子（4歳）の兄妹は、遠縁を頼って満池谷の家に一緒に住ませてもらいます。しかし、次第にその家に居づらくなった2人は、ニテコ池のがけの横穴で2人だけで暮らし始めます。やがて節子は栄養失調で亡くなり、清太は池を見下ろす丘で1人で妹を火葬し、自分も阪急三宮駅で餓死してしまいます。

そのような救いのない生活の中で、清太と節子が一時の安らぎを得たのが、このニテコ池の横穴での生活でした。暗闇の蚊帳の中に蛍を放し、ほのかな光を楽しんだのです。

この作品は作者の体験そのままではありませんが、空襲を受けた人々の様子や混乱する町の様子など、体験した人にしか描けない表現が多くあり、頼るべき大人を失った子どもたちが追い詰められていく様子がリアルに描かれています。

また、この作品には満池谷以外にも、夙川沿いの道、香櫨園浜、西宮回生病院など、実在の場所が多く登場します。

「小説 火垂るの墓 誕生の地」記念碑

淡いオレンジ色のバラが咲いています

西宮震災記念碑公園（奥畑）の少し奥まった場所に、「小説　火垂るの墓　誕生の地」を記念する石碑が、令和2年に建立されました。

地元の有志が恒久平和を願い、広く寄付を募って設置したもので、その趣旨などを日本語と英語で記した銘板があります。そばには、アンネのバラ教会から分植したバラが咲きます。

文学散歩の一環として訪問する人も多いようです。

（阪神バス山手線「満池谷」下車、徒歩約3分）

科学のトリビア(18)

眼科で見る「気球の絵」の意味

山田和男（奥畑）

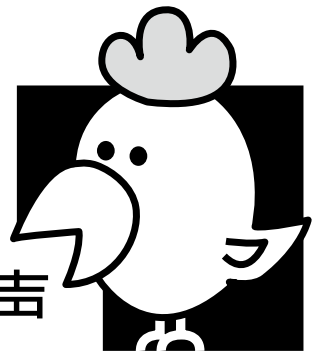
眼科医院を受診したり、眼鏡を新調したりするときに、箱の中にある赤い気球の絵を見たことがありますか？　真っすぐな道の向こうに赤い気球が浮いています。この絵にはどんな意味があるのでしょう。

この機器は、遠くを見ている時の眼球の形状を見るためのもので、それによって、近視・遠視・乱視の度合いを知ることができます。

この機器が開発された初期は、この絵は真っすぐの道だけだったそうです。ところが実際に使ってみると、検査を受ける人の視線があちこちに動いて眼球が固定せず、うまく測定できませんでした。そこで、検査を受ける人の眼球の動きを止める方法を考え、試行錯誤を重ねて、絵の中央に赤い大きな気球の絵を合成してみることに。「赤い気球を見てください」と声を掛けると、眼球が固定して検査しやすくなりました。

ちなみに、この検査機器を開発したのは愛知県蒲郡市にある会社で、この絵を発案したのも開発者自身だそうです。

季節のおいしい和菓子をお楽しみ下さい
慶弔の引出物承ります
御菓子司
菊菓舗 甲陽園
阪急甲陽園駅前通り　電話（0798）74-6825
（水曜定休日）甲陽園西山町1-60
広告



スクスク育て！「神原米」

神原小学校中庭の「みんなの田んぼ」で５月14日、５年生が恒例の田植えをしました。

当日は、神原小元校長の稲田俊哉先生や「トライやる・ウィーク」実習中の上ケ原中学２年生６人も参加。保護者にも見守られながら、泥田に足を踏み入れて田植えに挑戦しました。

秋の収穫が楽しみです。

中学生が植え付けの目印を準備

泥にも慣れて順調に植え付け

稲田俊哉元校長も駆け付けて参加

植え方を指導してもらいスタート

子どものおりがみ教室

日時：８月１日(金) 10:00～11:30
場所：神原公民館・市民館
事前申し込み不要　折り紙は用意します

【問い合わせ】
中尾　73-0075
市岡　70-4603
保護者の皆さんも一緒にどうぞ！

主催：神原コミュニティ協議会事業部

家庭でスズムシを飼ってみませんか

スズムシの幼虫(幼生)を配ります。各家庭で育ててみませんか。

日　時　７月20日(日) ①10:00～ ②10:30～ ③11:00～
場　所　神原公民館2階　　対　象　小学生とその保護者
内　容　参加者にスズムシの幼虫をオス・メス合わせて1人20～30匹ぐらい配布
持参品　飼育容器（市販のプラスチック容器など）
※土はこちらで用意します

【申し込み・問い合わせ】7月6日(日)10:00～12:00に山田(☎74-0978)まで
主催　神原コミュニティ協議会

ペタンクを一緒に楽しみませんか

スポーツクラブ21神原ペタンク部は、毎週日曜日に神原小学校グラウンドでペタンクを楽しんでいます。

ペタンクとは、目標球にボール(鉄球)を投げ合って、相手より目標に近づけることで得点を競い合うゲームです。１球ごとに変わる状況を見極めて作戦を立てるなど、とても奥深い競技です。しかも体にあまり負担がかからず、老若男女誰もが楽しめます。

リーダーの重永宗千代さんは、「ペタンクをやってみようと思う人は、一度、参加してみてください」と話しています。

日　時　毎週日曜日　９時～12時
場　所　神原小学校グラウンド
連絡先　重永宗千代　☎71・7574

目標球に近づくように投球

神原公民館地域学習推進員会講座の予定 (令和7年7月)

日時・場所	内　容	講　師	備　考
7月10日(木) 14:30～16:00 甲陽園市民館	えほんとおはなし会 ～絵本を通して子供と大人の交流会をしませんか～ 語り手と子供(聞き手)とお話の世界を共有します 対象 Aコース：小さい子ども向け(4歳～小学校2年生ぐらいまで) Bコース：大きい子ども向け(小学校3年生～) (連続参加可)	元 保育士 竹原 紀子	定員 子ども 各15人 先着順
7月13日(日) 13:30～15:30 神原公民館	沖縄三線コンサート 講師と一緒に、民謡や沖縄ポップスを歌って演奏します。また、沖縄の文化や戦争体験の話、三線体験コーナーもあります	三線師範 仲村 元一	定員40人 先着順 13:00～ 受け付け

電話申し込み・問い合わせは､平日9:00～17:00に神原公民館まで(電話71－7444)

上記のような講座企画に興味のある神原・甲陽園地域在住の皆さん、神原公民館地域学習推進員として一緒に活動しませんか？ 詳しくは、気軽に神原公民館まで電話してください。
電話 71-7444

神原公民館地域学習推進員

竹内　芳　　大住　忠司
大段るみ子　　下村　哲朗
石井　弘枝